商店街をもっと見る。もっと知る。

京都商店街新聞

2024.1 | Vol.8

KYOTO SHOPPING DISTRICT PRESS

発行｜京都府商店街振興組合連合会　〒600-8009 京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町 78（京都経済センター3階）　TEL (075)-342-0301　FAX (075)-342-0302　URL https://syouren.or.jp

CONTENTS

インタビュー：四条繁栄会商店街振興組合｜古川町商店街振興組合：設立60周年編｜山科商店会：SDGsパートナープロジェクト
「京都商店街創生フォーラム2024」開催｜「商店街まつり2024～京都を熱く～」開催｜商店街川柳｜ and more...

京都 四条
風格と華やぎの メインストリートを目指して

四条繁栄会商店街振興組合
専務理事　矢野（やの） 三博（みつひろ） さん

四条繁栄会専務理事の役割

四条繁栄会は、野村理事長の下に副理事長が3人いて、様々な委員会を担当しています。専務理事は僕一人で平成8年からです。商店街の様々な事業にかかわって商店街の顔である理事長と共に動き、様々な団体との交渉も行っています。一言でいうと、実動部隊です。様々な取り組みが目に見えた形になっていくことにこの役割の一番の楽しさを感じています。

風格と華やぎを目指したまちづくり

去年の夏から、四条繁栄会では『風格と華やぎのあるストリートを目指しています 四条繁栄会♪』『伝統と新しさの出会うストリートを創造する 四条繁栄会♪』というような、サウンドロゴを流しています。ここにある「風格と華やぎ」は、四条繁栄会の目指しているまちづくりの基本理念です。この理念を常に意識し、賑わい作りに取り組んでいます。平成15年には、四条通地区計画を条例化し、出店業種を限定した上質な商業空間を目指すことにしました。平成15年10月下旬から16年3月末にかけて風格と華やぎのまちづくりビジョン策定調査を行いました。四条通に相応しいまちづくりとは何かを考察しました。平成17年12月には、心地よく歩ける四条通の実現に向けた要望書を京都市長あてに提出しました。当時の四条通は、歩道側の車線に停車車両が多く実質一車線になっていました。狭い歩道では、バス停付近の車道に人があふれていました。これでは賑わいではなく単なる混雑です。そこで、私たちは、歩く人を中心としたまちづくりをはじめることにしました。平成19年10月には京都市、四条繁栄会が協力し、バスとタクシーのみが通れる規制を行い、マイカーや物流車は通れないというかなり思い切った交通社会実験を行いました。この実験は極端という意見もありましたが、9割以上の人が広くなった歩道に賛成するという結果となりました。これを受け、歩道拡幅を進め、車道も一車線ずつにしました。ここまで歩道を広げて車道を狭くしたまちづくりは、日本でも滅多にないと思います。交通社会実験の交渉時のアドバイザーであった京都大学の中川先生のすすめもあり、一連の取り組みを「京都 四条－風格と華やぎのメインストリートを目指して」という本として出版しました。

これからの商店街の課題

ハード面では、35年経つアーケードをどうするかです。防犯カメラや通行量カウンターもついており、日除け、雨よけだけじゃない多機能なアーケードのため、大きな検討課題です。また、ソフト面では、歩行者天国の「四条ひろば」の復活によって、さらに「歩く人を中心としたまちづくり」を実現していきたいです。そして、周辺の商店街や地域とともに、賑わいを共有し、人が回遊できるようなイベントもしていきたいです。周辺の14商店街を含む田の字地区のゲートウェイになれればと思います。

インタビューをおえて

インタビュー後に、拡幅された歩道に出て、商店街をご案内いただきました。地下道では鮮やかな広告やアート作品の展示に加え、スーパーマリオの世界観にも触れることができました。お話いただいた内容がどうなっているのかを実際に確認することができ、違った目線で商店街を見ることができました。「半歩前をいく」四条繁栄会のこれからがさらに楽しみになりました。

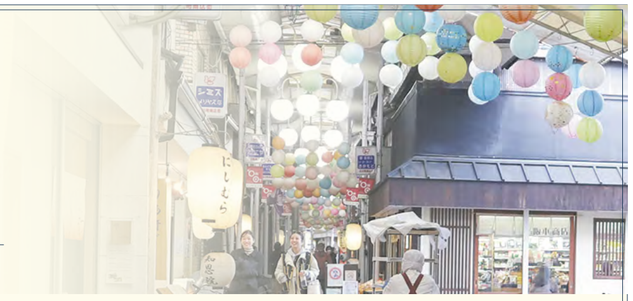
（文責）平安女学院大学 国際観光学部　井成和実　山内伊紀

● 四条繁栄会商店街振興組合｜
〒600-8005 京都市下京区四条通麩屋町西入立売東町24
☎075・221・2408｜FAX：075・223・0586
URL：https://www.kyoto-shijo.or.jp

マップ出所：京都商店連盟 / 京都府商店街振興組合連合会 HP 商店街マップより URL:https://syouren.or.jp/files/P58_P59_ol.pdf

古川町商店街振興組合 設立60周年編
1964年▶2024年
京都商店街の「魅力」探訪

取材・文・写真｜京都橘大学経済学部 前田ゼミ



● 古川町商店街振興組合 ｜ 〒605-0026 京都市東山区古川町546番地の1
URL：https://www.furukawacho.com

古川町商店街のまちづくり小史
白川まちづくり会社(古川趣蔵)　鈴木（すずき） 淳之（あつし）さん

古川町商店街のまちづくりはどのようにすすめられたのだろうか？商店街や白川エリアの活性化に取り組む白川まちづくり会社（古川趣蔵）の鈴木淳之さんにお話を伺った。

● 起死回生の一手！商店街のとった施策とは？

古川町商店街は、明治時代まで市場として発展したものの、スーパーなどの大規模小売店が出店したことにより、市場の中心であった生鮮食品の売上が低下した。市場は衰退にむかったため、商店街のあり方を変化させる必要に迫られる。そこで古川町商店街は、『レトロ&モダン』のコンセプトを掲げ、商店街の活性化に取り組んだ。

『レトロ&モダン』の雰囲気を好む若者が集まり、新規店舗を立ち上げたことで、昔の市場とは異なる新たなスタイルが確立された。新規店舗立ち上げの際に、『雰囲気』を崩さないでほしいと要望は出すが、法的な縛りを設けることはできない。しかし、京都市の景観条例と古川町商店街の雰囲気を好む人たちが集まるため、コンセプトは維持されているというわけだ。

『レトロ&モダン』のコンセプトを実現している古川町商店街は、お客さんと商店主の仲が良く、ゆっくりとした時間が流れていながらも自然と活気に満ちている。人とのつながりを大切に守り続けながら、商店街の発展に取り組む古川町商店街には今後も期待が持てそうだ。

● 街を彩るランタンの歩み

現在古川町商店街は、ランタンがつるされている。各地からアマチュアカメラマンや大手ファッションブランドが、カタログの撮影のために訪れるなど撮影スポットとして有名となった。

ランタンの始まりは、提灯であった。9年前に、長い提灯がつるされ、地域住民からの評判も良かったが、一方で「提灯に色味がなく、お葬式みたい」と否定的な意見も上がったため、カラフルでコストが低いランタンが新たに採用された。試しに200個ほどつるしてみたところ、評判がよく、現在では900個ほどのランタンがつるされている。現在インスタグラムでは、1万ほどのランタンの写真が投稿されている。また、2018年からは定期的に、ランタン祭りが開催され、現在も続く人気イベントとなっている。

取材・文：今井雄介、勝見昊岐、高辻千瑳、中澤貴翔、森岡善哉

日常生活に彩りと変化を与え続ける阪本商店の魅力
阪本商店　阪本（さかもと） 啓之（ひろゆき）さん

地域に密着しているだけでなく、近年観光客もよく訪れる古川町商店街。共に歴史を歩んできている阪本商店の現店主・阪本啓之さんにお話を伺った。

● 阪本商店とは

昭和初期に創業した商店で、現在は商店街の中で『食卓のお助け処』として、普通とは少し違う珍しい食品を販売、営業されている。店主の阪本さんは、商品に対する熱意を語る。

● 変化する商店街の中で生き続けた阪本商店の位置付け

「普段使っているものじゃなくて、この調味料を加えたら美味しいよとかちょっと何か生活に彩りを加えるお店、そういう位置付けかな」と、阪本さんはお店のコンセプトを話す。十数年前、商店街の変化に合わせて、売り上げの減少も覚悟で店舗面積縮小に踏み切った。

「何でもある日常の中で何か変化を与えるような、他と違う商品を提供することで、少し普段と違うものを。エッセンスみたいなものかな。のれんに書いてある『食卓のお助け処』っていうのは総菜屋の意味じゃないんです」。

店内には、店主自らが仕入れたこだわりの商品が並ぶ。「スーパーとは違う、それぞれの店が持つ専門性、それらが集まった商店街、その中でうちは調味料やお米、お菓子、お酒などの商品を請け負っています」。

● 商品選びにこだわり続ける阪本さんのやりがい

「この店を営業し始めたときはネットというものはまだなかったのだけど、今は何でもネットで買える時代ですよね。ただ商品というものは無限にあり、ネットで探してコレっていうのは難しいと思います。実際に店に足を運んで商品を見てもらうというのが重要なんです。自分で選んだ商品を目当てに来てくれるお客さんがいて、選んだ商品に対して『美味しかった』や『良かった』、『これないとあかん』などと言ってもらったときがすごく嬉しいです」。と話す。

取材中もこだわりの商品を求め、入れ替わりお客が訪れる様子がうかがえた。

取材・文：石見豪健、中村恭菜、幕内聖華、望田将瑛

商店街をワイヤーで彩る新たな風
Wire&Days オーナー　伊賀野（いがの） 彩（あや）さん

昨年、歴史ある古川町商店街の中にOPENし、そこで針金細工をされているWire&Daysさんにお話を伺った。

● Wire&Days の概要

2023年5月に古川町商店街にできたWire&Days。職人と従業員で運営している。ワイヤーで作ったフォトスタンドやインテリア用品などが売られている。

お店のコンセプトは『気持ちと贈るワイヤーアート』である。手紙などはすぐに片付けてしまいがちであるが、『Thank you』などの文字をワイヤーで作り、インテリア用品にすることで、常に目に入るようになる。「プレゼントをしてくれた人を毎回思い出すこともできる」と伊賀野さんは語る。最近は推し活グッズとしても注目されてかな、推しをイメージさせるようなワイヤーアートやオーダーメイド商品が人気である。

● 商店街や地域との関わり

古川町商店街には『昭和レトロな』感じと『ポップな』感じのお店があって、『ポップな』お店として、この商店街の一員になりたいと伊賀野さんは笑顔で語る。商店街のランタンとワイヤーアートの色がどちらもカラフルでマッチしていると考え、さらに、新しいことにたくさん取り組んでいるこの商店街で一緒に頑張りたいと思い、出店を決めたという。商店街に出店している方や地元の方たちにオープン前から支えてもらってきたので、恩返しをしたいと述べる。

遠方からも地域の人も訪れる、ここから古川町商店街を発信して、いろんな人に来てもらえるようなお店をもう1店舗オープンさせたいという大きな夢を描いているようだ。

取材・文：内山七映、徳永琉我、中村優希、山田凌大、和田一希

オザキヤ時計店、SDGs の取り組みについてのインタビューの様子。(手前) 安朱小学校 5 年生のお 2 人 (奥) 菊澤 明彦さん

「JR 山科駅前クリーンアップ運動」の様子

山科SDGsパートナープロジェクト

地域との連携で一歩踏み出していく

山科商店会 会長 菊澤（きくざわ） 明彦（あきひこ）さん

取材・文／藤田 直己

京都市では、多様な事業者・団体が SDGsパートナーシップに参加できる制度として「京都 SDGs パートナー制度」を進められています。その中で昨年、山科商店会が商店街で初めて登録されました。会長を務める菊澤さんに、商店会の SDGs 活動やプロジェクトの概要についてお聞きしました。

※京都SDGsパートナー制度とは？

京都超 SDGs コンソーシアムが実施主体となって、企業やNPO 法人といった各種団体なども幅広く対象とし、SDGs、CO_2ゼロに取り組む意思を宣言・実践する事業者などを公表する制度。

京都SDGsパートナー登録証

山科商店会は、SDGs、CO_2ゼロに取り組むことを宣言します。

2022年8月31日

山科商店会
会長 菊澤明彦

京都市長
門川 大作

「京都 SDGsパートナー制度」に登録すると、登録証が授与される。

活動を始めた経緯は何ですか。

令和 3、4 年度に京都市から「京都市商店街地域資源活用事業」の事業者の公募があり、山科の地域資源をもっと見出したいという思いから応募しました。そして令和 3 年 8 月には、JR 山科駅の開業 100 周年を迎えることから連携を強化し、地域の「活性化」、「連携」、「貢献」の 3 本柱を掲げました。地域資源の活用の取り組みの中で SDGs は“持続可能性”という意味でもとても重要であると考えています。その後、(株) 関広社長の南部さんから「京都 SDGs パートナー制度」の登録を勧めていただき、京都市立安朱小学校 (以下安朱小学校) や京都シティ開発 (株)、ラクト山科入居事業者、京都大学、京都超 SDGs コンソーシアムらと連携した「山科 SDGs パートナープロジェクト」を開始しました。

「山科 SDGs パートナープロジェクト」での活動について。

京都大学浅利研究室が主体となって、安朱小学校 5 年生を対象に、SDGs 学習成果の発表・展示を行いました。その中で事業者の SDGs の取り組みについて、商店会から 6 店舗がインタビューを受けました。私が営んでいるオザキヤ時計店ではビニール袋を使わず紙袋を使うといった SDGs 活動に加えて、時計を作る作業体験を行いました。その後成果をまとめたポスターセッションの発表会やディスカッションを通じて SDGs について多くの人と話し合い、商店会の今後の活動ついてスピーチもさせていただきました。

商店会での SDGs 活動について。

SDGs の定義は商店街の活動に向かない場合もあります。そのため、ただ難しい活動を挑戦していくのではなく、自分たちならできると思える活動を“継続”して行っていくことが重要であると考えます。

そこで、SDGs にも繋がる地域の貢献活動として、駅前の清掃活動「JR 山科駅前クリーンアップ運動」を令和 4 年 3 月より開始しました。毎月 18 日の午前 9 時 30 分から、JR 山科駅、京都シティ開発 (株) に加えて、地域の皆様が自由にご参加くださり、JR 山科駅前の清掃活動に取り組んでいます。この活動が SDGs 活動をするきっかけとなり、より多くの人が SDGs に目覚めるようになれば嬉しいです。

今後の取り組みについて。

「山科 SDGs パートナープロジェクト」を通じて、多くの小生の皆さんと交流することができました。このような学生との携はお互いの刺激になるため、地域の学生との連携はこれも進めていきたいと考えています。そのために広報活動を強るなど、今までの型をはずして一歩踏み出した活動していくを心がけていきたいです。

また、地域あっての商店会であるため、町内会などとの関づくりも大事にしています。山科商店会では、平成 10 年にショッピングセンター「ラクト山科」が創業されて以降、物舗がほとんどなくなりましたが、現在はこれらの多くの店が飲食店舗へと変わり、空き店舗が残ることなく賑わいが続いています。商店会の立地の良さ、閉店時間の縛りがないことが因であると考えられます。このように来るもの拒まずという ンスでこれからもやっていきたいです。

地域の様々な主体との連携や、地域の皆さんとの関わりを切にされていることが分かりました。長年続く商店街の軸をにしつつも、今までのやり方にこだわり過ぎず、来るもの拒の新しい風を取り入れていくことが、“継続”していくために重要であると感じました。

● 山科商店会 オザキヤ時計店 ｜ 〒607-8080 京都市山科区竹鼻竹ノ街道町 49 ｜ ☎ 075·581·3403 ｜
E-mail：ozakiyatokei@docomo.ne.jp ｜
URL：https://www.yamashina-shotenkai.com/

商店街・商店主のみなさまへ

掲載情報、編集メンバー、川柳、広告大募集中です。

「これってどういうこと？」、「うちの自慢を記事に」、「後継者を探したい」、「編集に参加してみたい」などなど……。商店街での取り組みやお悩み、情報を共有し、自分ごととして考える。そんな身近な商店街新聞をめざすために、京都の商店街・商店主のみなさまからの情報を随時募集しています。ぜひお気軽にお問い合わせください！

お問い合わせ先
■ 京都商店街新聞 編集部宛
E-mail ／ kyoto.shotengai.shinbun@gmail.com
■ 商店街川柳 応募フォーム
URL ／ https://forms.gle/YJ9oGc4YArgPpgVX6

編集部宛フォームはこちら▼

商店街川柳

日常のひとこまを川柳にしてみませんか？

商店街川柳の応募フォームはこちら▼

サンタ来て 福袋売り 鬼は外
整理番号65番 さん

初売りで 挨拶にぎわう みぎ ひだり
とら太郎 さん

おつかいで 泣いたあの子が もう晴れ着
おめでとう さん

小春空 商店街 ぶらり旅
ヒロシ さん